

すくすく 議会だより

No.78

編集/議会広報編集特別委員会



●今号の主な内容

6月定例会のあらまし…2~5

町の考えをただす

一般質問 6議員が登壇…6~11

特集 議員、被災地に行く…12~13

議員全員協議会の特別調査…14

皆さんからのご意見/ふるさとへの便り (44) …16~17

6月定例会のあらまし



夏場の服装として初めてクールビズで行われた6月定例会

副町長に櫻田総務課長が就任 ～新体制で初議会～

平成23年第5回定例会は、6月3日から6月9日までの7日間の会期で行われました。

本定例会では報告が4件、専決処分の承認が6件、条例の一部改正案件が1件、補正予算案件が2件、議決を求める案件が3件、同意を求める案件が9件ありました。

計25件の議案は、すべて原案を可決、同意しました。

一般質問は6人が登壇し、2日間にわたり定住促進対策や被災地支援および防災対策、住民主役の住み良いまちづくり、介護保険、町職員の定員適正化計画、節電・節水対策等について町当局の考えをたきました。

人事

○副町長の選任に関し同意を求めることについて（賛17、反1⇒同意）

昨年の11月から不在となっていた、副町長の選任に同意。



氏名 櫻田 久耕 氏
(57歳・葛根田行政区在住)
任期 平成23年6月6日～
平成27年6月5日

- 雫石町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて（全員賛成⇒同意）**
任期満了に伴うものであり、再任に同意。



氏名 ^{つちどい もとひこ} 土樋 丕彦 氏
(71歳・小松行政区在住)
任期 平成23年7月5日～
平成26年7月4日

- 雫石町御明神財産区管理委員の選任に関し同意を求めることについて（全員賛成⇒同意）**
御明神財産区管理委員7名の、それぞれの選任に同意。

氏名	年齢	行政区	任期
小志戸前 昭夫	70歳	小赤沢	平成23年 7月31日 ～
金戸 正志	69歳	和野	
小坂 英美	64歳	天瀬	
岩持 静雄	63歳	岩持	平成27年 7月30日
春木場 武実	61歳	上春木場	
千葉 和彦	59歳	まがき	
中村 継幸	53歳	中島	

条例の一部改正

- 雫石町火葬場条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）**
火葬の経費と使用料の不均衡を是正するため、町外利用者の火葬場使用料を改定。

区分	使用料	
	町内	町外
10歳以上の者	6,000円	30,000円
10歳未満の者	4,500円	20,000円
死産者	3,000円	15,000円
身体の一部、胎盤 その他これらに類するもの	3,000円	

補正予算

- 平成23年度雫石町一般会計補正予算（第1号）（賛17、反1⇒可決）**

補正前の額	補正額	計
78億7,000万円	6,485万7千円	79億3,485万7千円

▶災害にかかる職員手当 621万4千円

▶東日本大震災復興支援負担金	322万0千円
▶長山地区騒音測定業務委託料	242万7千円
▶工場等設置奨励補助金	1,271万2千円
▶観光協会補助金	400万0千円
▶防災行政無線個別受信機購入費	1,134万0千円
▶消防団第3分団第2部屯所新築工事	1,995万0千円
▶町営テニスコート照明器具改修工事	787万5千円

補正予算の主な質疑

問 新年度がスタートして2カ月しかたっていないのに、なぜこれほど当初予算に計上すべき予算、9月以降の議会に提案すべき補正予算が今出てきたのか。不要不急だから予算を凍結し、組み替えるということはどういうことなのか。

答 国や県の予算の確定を受けたもの、9月補正前に執行する必要が出てきたもの、本来であればやりたいたいがこの状況において不要不急の部分は待ってみようということ減額した。

問 観光協会補助金が増額されているが。

答 大震災の影響により、観光客の入り込みがかなり落ち込んでいるので、できるだけ元に戻したいというのが趣旨である。首都圏や大阪方面の観光キャンペーンに係る費用を400万円計上した。



東京で開催された「雫石町の物産と観光展」

問 長山地区騒音測定業務はどこに委託し、保全の会との協議をどうする考えか。

答 (有)川井林業の工場設置当初から公害防止協定を締結するため、事業者および保全の会と町が3者協議を進めてきたが、騒音レベルに関して双方の食い違いが大きく、協議が硬直化した。今回第三者の専門家に騒音測定（低周波音を含む）を依頼し、その次の段階にいかねばならないと説明している状況である。

問 消防費の受信機はどのようなものか。性能、配備先、価格は。

答 個別受信機は屋内で受信するもので、停電の場合は乾電池で作動する。配備先は行政区長 74 名、公民館長 63 名、自主防災組織の代表者 63 名と防災委員 63 名、予備 7 台を含め、合わせて 270 台を予定している。価格は 1 台 4 万 2,000 円である。現在消防団関係や役場の各組織にも同様のものを 90 台配備している。



配備される防災無線の受信機

○平成 23 年度雫石町介護保険介護サービス事業勘定特別会計補正予算（第 1 号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
1,084万3千円	29万4千円	1,113万7千円

▶循環ポンプ修繕料 29万4千円

議決を求める

○岩手県自治会館管理組合を組織する地方公共団体の数の減少の協議に関し議決を求めることについて（全員賛成⇒可決）

一関市に編入する藤沢町を、平成 23 年 9 月 25 日をもって岩手県自治会館管理組合から脱退させるもの。

○岩手県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少の協議に関し議決を求めることについて（全員賛成⇒可決）

一関市に編入する藤沢町を、平成 23 年 9 月 25 日をもって岩手県市町村総合事務組合から脱退させるもの。

○岩手県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び岩手県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更の協議に関し議決を求めることについて（全員賛成⇒可決）

一関市に編入する藤沢町を、平成 23 年 9 月 25 日をもって岩手県後期高齢者医療広域連合から脱退させるとともに、関係市町村の長および議会の議員のうちから 1 人を選出している広域連合議会の議員の定数を 34 人から 33 人に改めるもの。

専決処分

○雫石町税条例の一部を改正する条例の専決処分に関し承認を求めることについて（全員賛成⇒承認）

東日本大震災による被災者等を受け入れるに当たり、入湯税の課税を免除するため改正。

○雫石町税条例の一部を改正する条例の専決処分に関し承認を求めることについて（賛 14、反 4 ⇒承認）

国民健康保険税課税限度額の引き上げが平成 23 年 4 月 1 日から施行。

所得割額、資産割額、被保険者均等割額、世帯別平等割額の合算額の限度額が、基礎課税額では「50 万円」から「51 万円」に、後期高齢者支援金等課税額では「13 万円」から「14 万円」に、介護納付金課税額では「10 万円」から「12 万円」にそれぞれ引き上げ。

雫石町税条例の主な質疑

問 国では地方税法の一部改正の成立のめどが立たないのに、施行令を一部改正する政令を公布した。法の改正がないのに政令で確実にできるのか。

答 政令は政府において決めることができる。国から通知等もあり、それに基づいて町税を改正した。

問 国保税の課税限度額の引き上げは、ここまで引き上げることができるというものであり、審議会等で検討してから行うべきだ。支払う側からすれば、本当に限界だと思っている。引き上げて払える人はいいとしても、介護分や後期高齢者分は全員にかかってくる。こういうことは専決処分でするべきではない。

答 国からの指示であり、政令に基づいた形での改正である。定例会まで待つ時間が無いことから専決処分した。

問 国保税の課税限度額が高くなると、低所得の方々の税金も高くなり大変な状況となる。この値上げについてどれだけの方々が対象になるのか。その金額はいくらか。

答 限度額を超えている世帯は 100 世帯で、医療分が 22 世帯、支援分が 72 世帯、介護分が 6 世帯である。増加する額としては 106 万円ほどと捉えている。

○雫石町税条例の一部を改正する条例の専決処分に関し承認を求めることについて（全員賛成⇒承認）

町県民税関係では、東日本大震災で被災を受けた資産に対する特例損失金額を納税義務者の選択により平成22年に生じた損失とみなして、平成23年度課税分にし雑損控除が適用。控除しきれない場合には損失金額の繰越控除が5年延長。

住宅借入金等特別税額控除について、被災により当該家屋等が損壊、滅失した場合にあっても、当初の控除予定年数（残存期間の継続適用）の税額控除を適用。

固定資産税関係では、被災住宅用地に対する固定資産税の課税標準の特例適用を受けるための申請書等への記載事項等の改正。

○雫石町定住促進住宅条例の一部を改正する条例の専決処分に関し承認を求めることについて（全員賛成⇒承認）

東日本大震災による被災者等に対し、安定した住環境の確保のため定住促進住宅を提供するに当たり、敷金および一定期間の家賃、駐車場使用料を免除または減免するために一部改正。

雫石町定住促進住宅条例の主な質疑

問 今回の免除または減免では、全く内容が違う。どういう基準で対応するのか。また、現在何世帯の方が入居されているか。

答 基本的には減免という対応である。県の仮設住宅が完成するまでの応急的な考え方で提供している。

問 被災者がこちらで働いて収入を得て永住した場合の対応は。

答 今後面談をしながら、状況を見極めて判断していく。



被災者向けにも提供されている定住促進住宅

○平成22年度雫石町一般会計補正予算（第11号）の専決処分に関し承認を求めることについて（全員賛成⇒承認）

補正前の額	補正額	計
84億9,166万9千円	△60万8千円	84億9,106万1千円

▶災害にかかる職員手当	500万0千円
▶財政調整基金積立金(減)	△63万0千円
▶職員手当等(減)	△500万0千円
▶普通旅費の増	2万2千円

○平成22年度雫石町一般会計補正予算（第12号）の専決処分に関し承認を求めることについて（全員賛成⇒承認）

補正前の額	補正額	計
84億9,106万1千円	△730万6千円	84億8,375万1千円

▶財政調整基金積立金	3,553万5千円
▶町道除雪業務委託料(減)	△1,150万0千円
▶障害者自立支援給付費(減)	△579万0千円
▶一般廃棄物処理業務委託料(減)	△420万7千円
▶中学校総合体育大会等選手派遣費補助金(減)	△213万6千円

報告

○平成22年度雫石町一般会計繰越明許費繰越計算書について

テレビ難視聴地域解消事業が1件、きめ細かな交付金等の事業関係が公有財産管理事業など10件、震災の影響により日程変更や物流の停滞による知事および県議会議員選挙事業など8件、木造住宅耐震化支援事業が1件、計20件の事業の金額は1億9,834万9千円で翌年度繰越額は1億7,220万1千円。

○平成22年度雫石町御明神財産区特別会計繰越明許費繰越計算書について

森林整備加速化・林業再生基金事業費補助金に係わる事業の金額409万4千円で翌年度繰越額409万4千円。

○平成22年度雫石町介護保険事業勘定特別会計繰越明許費繰越計算書について

地域介護福祉空間整備事業の金額397万3千円で翌年度繰越額397万3千円。

○平成22年度雫石町立雫石診療所特別会計繰越明許費繰越計算書について

雫石診療所管理事業の金額20万5千円で翌年度繰越額20万5千円。



質問者／
いしがめ みつぎ
石亀 貢 議員

定住促進対策を

町長／移住・定住の情報発信を強化

石亀議員 人口減少は地域活性化をはじめ町政全般に大きな影響を及ぼす要因であり、町の施策体系のなかで知恵を出し工夫し、総合的に取り組む必要があると考える。定住促進の一環として町内の空き家物件情報を町のHPで紹介する制度を導入してはどうか。

町長 平成22年国勢調査人口は18,038人で平成17年国勢調査人口より1,017人の減である。第二次町総合計画でも平成31年度目標人口16,800人とした。町としては、子育てがしやすい環境整備、移住・定住に関する情報発信を強化し、定住促進対策に鋭意取り組んでいく。

個人情報保護法に関する過剰反応について

石亀議員 平成17年4月に施行された法律に対し、誤った理解から必要とされる個人情報の提供が行われないなど過剰ともいえる反応が見られ、弊害が指摘される。災害時の要援護者リストの問題、学校の連絡網の作成など、個人情報の取り扱いについての判断基準を伺う。

町長 実際には個人情報に係ることは何でも保護という誤解があり必要以上に保護意識を持つケースがあると思われる。当初は災害時における要援護者リストや学校の連絡網等の作成が困難であるとされる場合があったが、本人または第三者の権利、利益を不当に侵害される恐れが

ないことを前提に、目的外の利用や提供が可能と認められているが、特別の理由がある場合に限られる。

石亀議員 町民の常識に合った判断が必要と思うが明確化された運用基準を伺う。

町長 条例、規則、要綱の規定に基づき、個人情報の重要性と適切な取り扱いについての意識の啓発に努めたい。



人口の減少に歯止めをかける施策を

質問者
うわのみよじ
上野三四二議員



大震災から得た教訓と対策は

町長／地域防災計画の見直しが必要

旬までに町農林業政策審議会に諮問し答申を得たいと考えている。農業生産額は減少状況にあるが、農業改良普及センター、農協と連携し、農業指導センターを核としながら農業者経営強化に努める。6次産業化を促進し所得を高めるため、今年度においてアグリビジネス応援事業を創設し、付加価値の高い農産加工品の開発支援を行う。就農支援、農地利用集積、耕作放棄地対策などに努める。

2巡目岩手国体開催について町の対応は

上野議員 2016年に予定の岩手国体は、東日本大震災の復興に多額の資金と人材を要することから岩手県知事は難色を示していると聞くが、アーチェリー種目を開催予定の本町としてはどのような意見を述べたか。

町長 岩手の災害復興を期して2巡目国体は開催すべきと考えており、ぜひ開催を検討してほしい旨を教育長から県に伝えてもらった。

上野議員 東日本大震災の被災地復興再生のため、引き続き中長期に支援すべきである。また震災から得た教訓は何であり、どう防災行政に生かしていくか。防災無線の難聴地域の改善策の考えを聞きたい。

町長 中期支援は7月をめどに、長期的には7月～9月に野田村、7月～来年3月まで大槌町などに事務、技術系職員の派遣を予定している。

本町も、停電、電話不通、漏水、物資不足など生活に影響が大きく自主防災の重要性を感じた。地域防災計画も見直す必要がある。地域の情報伝達強化のため、行政区長、防災自治会長のほか、地域の防災リーダーに防災受信機の設置や難聴対策の改善策を講じていく。

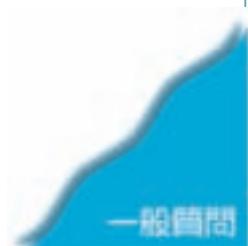
農林行政は深谷町政の重要施策なはず

上野議員 深谷町政の重要施策の農林行政は、今年度すでに2カ月を経過したが行動計画が見えてこない。関係指導機関や農業団体、農業委員会の連携、職員の配置体制は機能化しているか。改善された対策や内容はどのようなものか、具体的に示されたい。

町長 農林課に組織を独立させた。基本となる農林業行動計画の策定が大震災の影響で遅れている。6月中



自治会で行われた防災訓練の様子





質問者／
おおむらしょうとう
大村 昭東 議員

上野沢への「ふるさと林道」をなぜ中止にしたのか

副町長／改めて経緯を調べる

大村議員 マニフェスト2010で約束している、町をあらゆる災害から守るハード整備の中に上野沢に災害時の緊急連絡などの多目的道路として着工決定していた「ふるさと林道」が入っているか。

経営推進課長 今の時点ではそれを想定した形での具体的な計画は特にはない。

大村議員 この「ふるさと林道」は、上野沢の住民と御明神地区の山林所有者の強い要望で着工決定したものであるが、なぜ中止したか。上野沢の人たちや山林所有者は中止の説明を受けていないようであるが、当時この問題をどのような責任ある始末をしたか。

副町長 詳細を把握していないので、その経緯については改めて担当課を通じて調べる。

大村議員 東日本大震災と環太平洋経済連携協定という大きな出来事から予想される社会の激変を、総合計画とマニフェスト2010とどのようにすり合せて「住民主役の住み良いまちづくり」を進めているか。

町長 このような事態であれ、「変革の時代」に向けて策定した総合計画「新しい雫石」へ向けた私のマニフェストの理念に沿って取り進めていくことができると考えている。

大村議員 今回のような大震災はいつ起きるかわからないが、平成21、22年度に「雫石町地域防災会議」を開いたか。

副町長 防災会議については開催していない。

大村議員 防災会議委員を委嘱しているか。

副町長 昨年度の2月24日に開催し任期2年をお願いしている。

大村議員 委嘱状を出しているということであるが、現在の防災計画を見ると委嘱状を出せる状態になっていない。例えば防災会議委員となっている青森営林局雫石営林署は現在あるのか。

防災会議は開かない、地域防災計画は加除整理しない、こんな手抜き行政で安全・安心に暮らせるまちづくりが本当にできるか。

副町長 委嘱状は平成22年2月24日に交付しており、2年の任期で現在も継続中である。

大村議員 マニフェスト2010などで約束している無利子無担保の農業基金の創設、農業生産額82億円、5%アップ等の農業施策が総合計画、施策方針からは読み取れず、本町の農業振興策について農家の主婦、農業青年は怒っているが、どのような農業施策を進めているか。

農林課長 できる限り外に出て、皆さんの声を聞いているので、今後参考にしていきたい。

質問者
伊藤哲夫 議員



第5期の介護保険料は

町長／現状を把握し適正な保険料に

によるパトロール、住民、観光客など道路を利用する方々の通報により路面の陥没や段差等は緊急に措置するようにしている。今後も利用者の安全な道路交通の確保に努めていく。

放射性物質の調査結果に対する町の対応は

伊藤議員 放射性物質の調査結果が発表されたが、町の今後の対応はどのように考えているか。

町長 岩手県から県内5個所の牧草の放射性物質の検査を実施した結果、滝沢村内にある県畜産研究所で採取した牧草から359ベクレルの放射性セシウムが検出されたと発表された。

町内の公共牧場を運営する3つの牧野農業協同組合、新岩手農業協同組合を通じて町内畜産農家へ連絡し、県からの放牧の見合わせに係る要請を徹底した。この要請が届いた5月13日には、上野沢牧野では既に放牧が行われており、放牧制限に該当する牛が2頭いたことから、御明神牧野農業組合を通じて家畜飼養農家にご理解をいただき、該当する牛については放牧を中止していただいた。

伊藤議員 平成24年4月から実施される第5期介護保険事業計画の中で保険料の引き上げが検討されている。介護サービスも組み込まれているといわれるが、町の考えは。

町長 当町の第4期介護保険事業期間における介護保険料は基準月額が3千338円、年額に換算すると4万100円であり、県内では最も低い保険料となっている。当町が積み立ててきた介護給付費準備基金を1億円取り崩すことと、介護報酬改定に伴う国の特例交付金で負担することから算定された保険額であり、これらの措置により1号被保険者の負担増を抑制してきた。

第5期介護保険事業計画における介護保険料については、人口の推移や介護給付費の見込みに加え、介護保険制度改正などが複雑に影響することから、今のところ具体的に捉えていないが、今後国の動向と必要となるサービスの量などを適切に把握し、適正な保険料となるよう算定したい。

雪害等に係る道路補修を

伊藤議員 生活道路である町道について、アンケートにより雪害等に係る補修工事の要望が多く出されており、町として整備についてどのように考えているか。

町長 本町は現在1級、2級町道の約841kmを管理している。雪害等による損傷は発生しており、損傷個所を職員



質問者／
かとう ますみ
加藤真純 議員

診療所は民営化すべき

町長／改善結果を見きわめて

加藤議員 以前から指摘されている診療所の赤字体質、また健康センター内の各組織連携の弱さ、組織の統配合と合理化の必要性、利用されていないつどいの広場など、基本構想との乖離^{かいり}が見える。いっそ民営化した方が町民にとって有益ではないか。

町長 今年度初めから保健課、健康推進課、福祉課、診療所一体で基本構想に基づく運営を目指し検討を開始した。いきなり民営化は考えてないが、改善の行き先で考えたい。

加藤議員 赤字対策は経営改善も必要だが、本質は別なところにある。人員構成や体質改善をしなければ黒字の道はない。

町長 外からもいろいろな声を聞いている。今年度の改善の結果で見極めていきたい。

野球場スコアボード改修工事は疑問だらけ

加藤議員 なぜ一昔前のそれも故障が多い磁気反転式表示板としたのか。余計な設計委託をせずメーカーに一括発注すれば、フルカラーLEDのスコアボードができたと考えるが。

町長 県内の球場と同等レベルとした。技術力のある業者に設計を分離発注した。

加藤議員 556万円の設計委託を随意契約したり、工事の落札額が最低制限価格

と1,174円しか違わなかったり、利用関係者と協議もせず、誰が見ても首をかしげている。自分で自分の行政改革の足を引っ張るようなことはいかなものか。

町長 指摘^{しんし}を真摯^{しんし}に受け、きちんと精査する。



磁器反転式表示板に代わるスコアボード

町職員数は全国類似団体で断トツ

加藤議員 議員定数見直しの必要性も認識の上での質問だが、職員定員適正化計画の分析・評価は。

町長 全国類似団体の人口1万人当たりの一般行政職員数平均85.74人より2.85人下回っている。平成22年～26年で5%12人減の計画である。

加藤議員 類似団体で雫石より多いのはすべて合併した町だ（広大な別海町^{べつかい}を除く）。合併してない町の中では、雫石が断トツに多い。単に全体の平均より少ないと満足しないで、疑問を持って掘り下げた検討をすべきだ。

質問者／
すぎさわとしあき
杉澤敏明 議員



大震災後の事業執行状況は

町長／凍結・見直し等の検討を踏まえ、実施中

杉澤議員 当初予算に計上した事業で取りやめや縮減した事業はどのくらいあるのか。

町長 東日本大震災を受けて、今後、本町の財政運営にも少なからず影響が見込まれることから、凍結・見直し等の検討を行うこととしており、役場庁舎駐車場区画線設置工事的取りやめ110万6千円、農業活性化推進費の中の先進地視察研修の取りやめ129万6千円など総額1,140万円を6月補正予算で減額している。今後も大震災の影響を勘案しながら事業を実施していく。

自然エネルギーの積極的導入を

杉澤議員 節電実施に関連するが、自然エネルギー、特に本町の広大な森林の整備と併せて間伐材を活用した発熱・発電に取り組むべきだと思うがどうか。

町長 自然クリーンエネルギーの時代ということで、少し情報を入手しながら、本町に適切なものがあれば、当然考えていきたい。

杉澤議員 東日本大震災により、本町にも被害が発生しており、その後の観光客の入り込みの減少や行事等の中止などにより経済に多大な影響が出ているが、被害内容および被害額はどれ程だったのか。

町長 4月15日現在では、町道の路面補修が約200万円、水道施設関係が約2,000万円、農地被害が約1,400万円、農産物被害が約2,000万円、学校施設関係が約100万円、公共施設関係が約900万円、被害額の総額は約6,600万円となっている。

杉澤議員 被災者対応や支援活動等に伴い、予算執行の遅れが懸念されるが、繰越明許費とした事業の現時点での執行状況はどうなっているか。また、当初予算における現時点での契約ベースの事業発注状況は前年度に比べどうなっているのか。

町長 5月末時点で執行中の事業は、一般会計が12事業で予算執行額が約1億212万円（繰越総額は20事業で1億7,220万1千円）、特別会計は2事業で約418万円（繰越総額は3事業で827万2千円）となっており、予算執行率は59.3%、50.5%となっている。繰り越した事業の大半は、上半期中の執行を見込んでいる。また、当初予算の4月、5月の入札実績は、9件（前年度9件）となっており、前年度と変わらない状況となっている。



西根小学校に設置されている太陽光発電



議員、被災地に行く

雫石町議会では、今般の東日本大震災において壊滅的な被害を受け、特に当町に多くの避難者を受け入れている大槌町と山田町に対して3回にわたってお見舞いをし、野菜類の支援物資を送り届けました。その様子について報告します。

〔平成23年4月11日に大槌町、山田町を見舞う〕

4月8日に、議会運営委員会を開催し、支援の仕方について協議した結果、「雫石町議会議員互助会」として、それぞれの町に「お見舞い金」を贈る方針を決定し、4月11日（月）に平子議長、小原局長が議会を代表して被災地に出向きました。

当日は、釜石市を經由して大槌町に向かいましたが、釜石市では、繁華街である港付近のビルは、3階くらいまで浸水しており、歩道などがれきの山で、歩くのもままならない状況でした。〔写真①〕

大槌町に向かう車窓から眺める湾岸沿いの集落や施設などの被害状況は、相当山間部の奥まった区域まで浸水しており、津波の脅威を感じました。

大槌町に入ると、以前の町並みが全くなくなり、施設のほとんどが損壊している状況が見えてきました。車道のがれきりは撤去されており通行は可能でしたが、周辺の残がい等の処理はまだまだかかりそうでした。〔写真②〕

災害対策本部が置かれている場所は、被災を免れた高台にある中央公民館であり、対策本部と避難所が一緒になっていました。

平子議長から東梅副町長にお見舞い金を手渡した後、被災状況等の報告を受けましたが、町長をはじめ相当数の職員などが被災し亡くなっており、役所としての機能はかなり損なわれているとのことでした。〔写真③〕

山田町の市街地に入ると、大槌町と同じように町の中心部がなくなっていました。火災も発生しており、焼け残った建物が周辺に散在し、荒廃した景色が目前に広がっていました。

沼崎町長にお会いして、平子議長からお見舞いとお悔やみを申し上げ、お見舞い金を手渡しましたが、町長も議長も被災者であり避難生活を強いられているとのことのお話でした。帰りに、被災した街中を通ってきましたが、延々と続くこれまで見たこともない光景に胸が詰まりました。〔写真④〕

今回見舞った二つの町の被害状況を実際に見るにつけ、大自然の脅威をまざまざと見せつけられた感がありました。

- 写真① 釜石市内の被害の状況
- 写真② 大槌町市街地の被害の状況
- 写真③ 大槌町災害対策本部を見舞う
- 写真④ 山田町庁舎から被災した市街地を望む



写真①



写真②



写真③



写真④

〔平成23年4月26日に行った支援物資搬送の様子〕

雫石町議会では、去る4月11日に大槌町と山田町に対して、議長が直接お見舞いをしていますが、4月15日の政務調査会において、大槌町と山田町には支援物資の行き届かない避難者や小規模避難所が、まだまだ多くあるとの情報から、そこへ新鮮な野菜類を届けてはとの話題が出されました。

さっそく議会運営委員会が開かれ、議会を代表して前田隆雄総務委員長、石亀貢教育民生委員長、猿子恵久産業建設委員長と小原事務局長が随行し届けることになりました。

3委員長らが物資の調達について協議した結果、届ける日は4月26日（火）と決定し、町内から調達したハウレンソウ、タマネギ、じゃがいも、ネギなど被災地ではなかなか手に入らないような青物野菜類を、ワゴン車に積める限り積み込んで被災地に向かいました。

午前7時に雫石町役場を出発し、大槌町の山手にあり避難所を開設している金沢地区において開設されている4か所の避難所に物資を配布しました。この地区は、その地形から支援物資の配給も滞りがち

の地域のように、当方で届けた青物野菜類は避難者から本当に感謝されました。〔写真①〕

一通り物資の配給を終えた後、町の災害対策本部に向かいました。

災害対策本部は、4月25日に設置されたばかりの仮設庁舎内にあり、東梅副町長等とお会いして被災のお見舞いとお悔やみを申し上げ、支援物資を届けました。〔写真②〕

次に山田町に向かい、沼崎町長にお会いし〔写真③〕、今回の支援物資である青物野菜類を届けました。〔写真④〕

帰りは宮古市街地を通り、宮古市田老地区、そして岩泉町の小本地区を經由し被災状況等を調査しながら帰路につきましたが、いずれも、言葉では言い尽くせない津波の脅威、大自然の力を身に染みて感じてまいりました。

- 写真① 大槌町金沢地区の避難所に物資を搬入
- 写真② 大槌町災害対策本部で東梅副町長と会談
- 写真③ 山田町対策本部で沼崎町長にお見舞いする議員
- 写真④ 山田町の体育館に支援物資を搬入



議員全員協議会の特別調査

5月18日、東日本大震災における県内被災地（陸前高田市、大船渡市、釜石市、山田町、宮古市）の現況を調査し、震災に対する町の対応および今後の震災に対する提言につなげるために実施されました。



被災地に降り立ちあまりの惨状に言葉をのむ（陸前高田市）



鉄道の復旧にもかなりの時間を要することがわかる（大船渡市）



津波の傷跡が生々しく残っている（釜石市）



津波により破壊された消防車（大槌町）



被災した大槌町役場（時計は津波があった時間で止まっている）

想像を絶する津波の威力に改めて自然の脅威を感じました。被災地の復興にはまだまだ時間を要することから、今後も継続した被災者支援が必要であると思います。

第33回 在京雫石町友会主催の交流会に参加して



在京町友会の坂本会長から義援金を受け取る深谷町長

本年も、6月25日（土）に、東京都荒川区東日暮里の「ホテルラングウッド」において第33回在京雫石町友会交流会が開催されました。

交流会に、町当局から今回初めて参加する深谷町長、吉川教育長、さらには先般副町長に就任した櫻田氏ほか職員5名、そして階猛衆議院議員、大宮県議会議員、加藤商工会会長、松田しずくいし物産振興会会長、小岩井農牧（株）、福田廣平さん、議会からは平子議長ほか4名の町議会議員が参加しました。

開会の前に、この度の「東日本大震災」において被災され亡くなられた多くの方々に対して、ご冥福をお祈りし黙とうが捧げられ、その後、各者からそれぞれご挨拶がりましたが、やはり大震災のことに触れられ、一日も早い復興を願う思いがひしひしと伝わってきました。

「この大震災に関わっては、町友会として義援金を募ったので町に寄付したい」と高畑事務局長から主旨説明があり、30万円が坂本会長から深谷町長に贈られました。実に感動的でした。

乾杯の後は、例年どおり和やかに懇談がなされ、それぞれふるさと雫石の話題に花が咲きました。集合写真を撮影、雫石町にゆかりがある福田廣平さんらによる郷土芸能や歌謡曲「南部蝉しぐれ」が披露されました。後半は有志によるさんさ踊りで徐々に場が盛り上がってきました。賑やかな雰囲気の中、会員である石田さんの中締めのエールで最高潮に盛り上がり、約2時間半の至福のひと時が終

りました。

その後は、「いわて銀河プラザ」に行き、現在開催されている「雫石町の物産と観光展の様子を視察してきました。スタッフ等は威勢よく元気な雫石町をアピールしており、新鮮な野菜やお米、水などが好調に販売されている様子がうかがわれました。その姿にエールを送り、帰路に着きました。





議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



ささだ ゆういち
笹田 裕一さん
(62歳・七区行政区)

震災に思う絆きずな

3.11大震災は、3カ月過ぎた今でも被災地は多くの傷跡を残したままで、この大震災を誰が想像したことか。しかし被災地の方々が身を寄せ合いながらも、再生に向け取り組んでいる様子をマスコミを通じて目にします。この震災を目の当たりにしたとき、心の中から何かできないか、何か役立つことはないか誰しもが考えたことと思います。

この気持ちの表れとして「日本は絆で結ばれている」この言葉から家族や地域の絆、町や県、世界の絆について改めて考えさせられました。日本は地域の氏神を中心に、その土地の氏子が協力し合い、助け合うことで「絆」となり、今日の日本が築き上げられてきたものと思います。これを機に、この「絆」を風化させないためにも一人ひとりが育み、大切に作る心を、この震災が我々に問いかけているように感じております。



たかはし たけやす
高橋 健保さん
(51歳・天戸行政区)

今後の農業が心配

自然と田園風景が調和し、四季の移り変わりの美しい町「雫石」。このような環境で基幹産業の農・工・商・観が営まれてきました。

私は町内で農業を営んでいます。家族協力し合い、少しでも質の良い米や野菜を作ることに努力しておりますが、農業を取り巻く情勢は年々変化し、大幅な減反と米価の下落、そしてTPP（環太平洋経済協定）問題と状況は大変な事態になっています。特にTPPが合意になりますと、外国の農産物がさらに輸入となる可能性があり、日本の農業はどうなるのか、不安を感じております。

日本は食料自給率40%（カロリーベース）と聞いております。残りを輸入している状態、その上、自由化となり米までも輸入となってしまうと、最後の砦をなくし、食卓が完全に外国依存になるかもしれません。

稲作は、日本の文化、古来より永遠と続いてきた文化です。次の世代につなげなければなりません。

議会で、農業・農政さまざまな問題が議論され、ご苦労されていると思います。この国、この町の田園風景が持続し、次世代に継承できますように、一層の議論、国への要請をよろしくお願い申し上げます。



さかもと まなぶ
坂本 学さん
(39歳・橋場行政区)

今と昔を振り返って

私の小さい頃の橋場部落は、山沿いにポツンとある小さな部落でした。部落自体は活気がないわけではないのですが、どこかさびしい感じがしたのを覚えています。

10年前に道の駅「雫石あねっこ」ができてからは、道路や歩道も整備され、とても見違えるようになりました。道の駅ができて一番うれしいのは、地域も活性化し地元の人たちがとても元気になっていることです。私も地域の人達の元気を見習い、地域発展に少しでも役立てればと思います。定年後には、私も道の駅の組合員になり、自分の作った野菜を出荷できればと思っています。

最後に、議員の皆様には、日々大変な努力をされていると思いますが、雫石町がこれからも発展するようご活躍を期待します。

よしだ きよみ
在京雫石町友会幹事 吉田 清美さん



祖父の教え「正直は一生の宝」が人生訓

私の実家は下町の茂七（屋号）です。上京できたのは父（清）のおかげで、当時「長男は外に出るものじゃない」と家族や親類が皆反対する中、「他人の飯を食わないと一人前になれない。社会勉強をしてこい」と送り出してくれたのが父でした。その父も2年後に急逝、祖母も亡くなり、広い家に一人残された母の面倒は姉夫婦にみていただきました。東京に出発する日は大雪で、雫石駅まで近所の沼田与惣さん（沼田歯科）の車で送っていただきました。

東京での生活はずいぶん苦勞もありました。寂しい時、苦しい時、当時はやっていた井沢八郎の『ああ上野駅』の『くじけちゃならない人生』を口ずさみ、自分を励ましたものです。

年を重ねるにつれ望郷の念が募り、思い出されるのは、岩手山がそびえる自然豊かな故郷雫石で過ごした18年間です。啄木の『故郷の山に向かいて言うことなし故郷の山はありがたきかな』が今の心情です。よく思い出

すのは小川でのザリガニとり、雫石川での水浴び、カジカとり、七ツ森での栗拾い、キノコ採り、野外授業・・・八幡様のお祭りも懐かしく思い出されます。幼少時代は虚弱体質でしたが、中学ではバトミントン部で鍛え、中体連で準優勝するまでになり、その時培われた最後まで諦めない粘りの精神が今でも自分の支えになっています。

昭和57年に同じ金融機関に勤める妻と縁あって結婚、男児2人にも恵まれ、現在横浜に住んでいます。長男であり、実家の面倒をみなければならぬ立場にありながら雫石に残らず、義兄と姉に一切面倒をみていただいたことに本当に感謝しています。故郷の恩師や友人、親類、近所をはじめ多くの皆さんの指導をいただき今日があることに感謝するとともに、日頃の非礼を心からおわび申し上げる次第です。祖父（清蔵）が囲炉裏端で語ってくれた「正直は一生の宝」を人生訓に生きてきましたが、これを支えに残された人生を過ごしたいと思っています。



ディズニーシーで家族と（前列左が筆者）



幼少のころ（後列左から4人目が筆者）

吉田 清美さんプロフィール

昭和26年生まれ。雫石小学校、雫石中学校、盛岡商業高校、中央大学、昭和44年三菱銀行入行（現在の三菱東京UFJ銀行）。丸ビル支店をスタートに全国12の支店、本部を歴任。現在は三菱UFJスタッフサービス営業部長。

栗石町へようこそ



お嫁さん

お婿さん



小岩井農場で、夫の豊さん、
長男の有琉斗くん、長女の采佳ちゃんと

ご縁があり、町外から迎えられた
「お嫁さん」や「お婿さん」が登場します。

木村 美佳さん (39歳 千葉県千葉市出身)
(旧姓：石橋、上町一・二行政区在住)

Q- お二人の馴れ初めは？

- 友人主催のお花見会で知り合いました。

Q- 栗石町にきて2年3か月、暮らしてみいかがですか？

- 朝の澄んだ空気に響き渡るカッコウの鳴き声。
季節ごとに味わえる新鮮な山菜や野菜。
山々に囲まれた美しい自然の中で子どもたちののびのびと育てられるだろうと嬉しく思っております。

Q- 町に望むことは？

- 美しい自然、おいしい食材等、栗石町の良さをもっとクローズアップして発信していただければと思います。

Q- 今後のお子さんの予定は？

- 既に2人おりますが、もう一人ぐらい欲しいかも…

議会を傍聴 しませんか

次回の定例会は
9月上旬に
開会予定です

～傍聴席は4階にございます～
議会事務局 ☎ 692-6596

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、
情報収集、町政協力者への謝意を表すた
めに係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳 (4月～6月)】

月	葬祭費		お祝い、会費	
4	0件	-円	0件	-円
5	0件	-円	3件	15,000円
6	0件	-円	2件	5,000円
小計	0件	-円	5件	20,000円
平成23年累計	0件	-円	13件	46,000円

お知らせ

＊ ＊ 町議会議員選挙の日程について ＊ ＊

震災の影響により延期されておりました町議会議員選挙の日程が
下記のとおり決定いたしました。

告示日 7月26日(火)
投票日 7月31日(日)
投票時間 7時～18時
開票 即日開票 19時30分～(中央公民館)

■ 編集デスク

3月11日に発生した未曾有の震災により被災した地域の一日も早い復興をお祈りいたします。

「栗石へようこそ」と題し、お婿さん、お嫁さんの紹介ページを新たに設ける等、町民から親しまれ愛読いただける「議会だより」を念頭に、2年3カ月間、編集して参りましたがいかがでしたでしょうか。声の欄にも毎回多くの方の貴重なご提言をいただき、全国議会広報コンクールにも3年連続して入賞できた事など、改めてご協力に感謝申し上げます。

栗石町議会の改選も7月と決定され、議会だよりが配布される頃は町内選挙戦が間近に迫っていると思われませんが、改選後の新体制での議会だよりも引き続きご愛読下さいますよう、よろしく願い申し上げます。

(編集副委員長 石山 仁)

●今号の表紙/本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたしております。笑顔が絶えないまちの元気な子どもたちの様子を介绍。今回は、「南畑小学校」に通う児童たちの笑顔です。